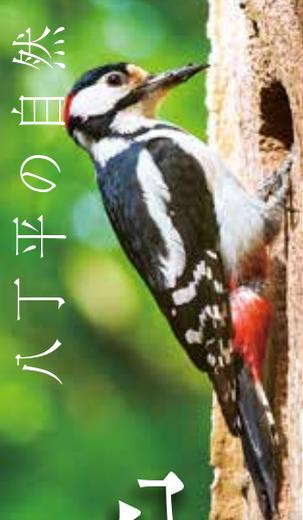


八丁平の自然



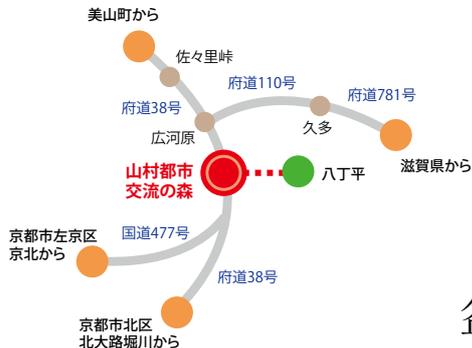
京都市北域の
高層湿原と
生きものたちの
営み

八丁平の自然



Hatchodaira

京都市



盆地状の谷間に広がる平坦な湿原。
 周囲はおよそ八丁の距離。
 それが八丁平の名の由来です

京都市の北部、左京区久多にある八丁平は、西側は峰床山の頂から連なる尾根、東側は滋賀県との県境にあたる稜線に囲まれた90haあまりの盆地状の谷間です。谷あいの平坦な部分の周囲がおよそ八丁(約870m)であることから、八丁平とよばれるようになりました。

なだらかな山稜に囲まれた八丁平には、四季折々に趣を変える落葉樹の林、高原を思わせる湿原が広がっています。人里から離れた静かなこの谷には、希少な植物や野鳥、ツキノワグマやニホンカモシカなどの野生動物たちが生息しています。

この希少な動植物を守るため、八丁平は平成28年3月25日に「京都丹波高原国定公園 第1種特別地域」に指定されました。

京都丹波高原国定公園の概要

京都の中央部(京都市、綾部市、南丹市、京丹波町)にまたがる総面積68,851haにおよぶ広大な区域が「京都丹波高原国定公園」です(平成28年3月25日指定)。一帯には原生的な自然が残り、希少な動植物の生息地になっています。日本海と京の都とを結ぶ多くの街道が縦断する地域でもあり、自然と文化が融合した風致が特徴です。京都市左京区の花脊峠以北のエリアは山村の趣が特徴的で、滋賀県との県境付近にある八丁平には3万年前の最終氷期に形成された高層湿原が現存します。

もくじ

八丁平にでかけませんか おすすめ「散策ルート」	4
八丁平の地形と植生	8
五感に響く「春・夏・秋・冬」	10
八丁平の森林	18
樹種に注目してみると	20
高層湿原ってどんなところ?	22
湿原の堆積物	24
湿原と森林の変遷	26
よーく観察してみると	28
散策の心得と装備	30

湿原の南東の散策路から見下ろす初夏の八丁平



八丁平にでかけませんか おすすめ「散策ルート」

食堂や宿泊施設をそなえた「山村都市交流の森」を基点に、左京区北部の山間地域の自然をたっぷり堪能しませんか。



北部地域の峰々

松上げ



山村都市交流の森「翠峰荘」



山村都市交流の森「翠峰荘」



上桂川



三本杉

春日神社のイチョウ



中級向

峰定寺から寺谷川を遡る

Aコース 片道約8km

往路 約4時間
復路 約3時間45分

峰定寺から寺谷川のせせらぎを楽しみながら谷筋を抜け、俵坂峠から峰床山頂、オグロ坂峠をまわって八丁平をめざします。

健脚向

交流の森から尾根道を楽しむ

Bコース 片道約9km

往路 約4時間15分
復路 約4時間15分

センターエリアから、天神の森、緑風の森を經由して、明るい尾根道を楽しみながら、フノ坂峠をまわって八丁平をめざします。

秋の八丁平

森の散策路を熟知した「山村都市交流の森」のスタッフがルート設定の相談に応じます。希望者にはガイドも派遣します。気軽にご相談ください。

TEL: 075-746-0439

宿泊施設完備
山村都市交流の森
センターエリア

無料駐車場



- 林道
- - - 散策路
- Aコース
- Bコース
- 分岐点
- ←30分→ 所要時間

健脚向

B

交流の森から尾根道を楽しむ

コース 片道 約9km

往路 約4時間15分

復路 約4時間15分



山村都市交流の森主催の「八丁平トレッキング」



オグロ坂峠



東屋からの眺め



こもればの道



ナメラ尾根歩道(春と冬)

Bコースは、八丁平の散策(約1時間)を含めると、往復で約10時間の行程です。余裕をもつてのんびり楽しみたい方には、「翠峰荘」で前泊し、朝早い出発をおすすめします。



翠峰荘(夕食もご用意できます)



チセロ山山頂



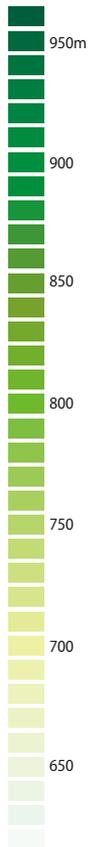
八丁平の地形と植生

八丁平は、琵琶湖に注ぐ安曇川の支流、江賀谷川の水源にあたります。湿原の南側にある硬いチャートの岩盤が浸食を防いだので、ゆるやかな谷間が残りました。中央に広がる5haほどの湿原は、近畿地方ではめずらしい高層湿原です。泥炭が堆積した湿原には植物が豊かに育ち、湿性植物がびっしりとおおっているの、土砂の流失をまぬがれました。こうした安定した条件のおかげで、豊かな自然が保たれ、多様な動植物が息づく、八丁平の特徴的な景観が形成されました。

湿原の堆積物に含まれる動植物の遺体や植物の花粉を手がかりに、生物相の変化や過去の気候変動を解明できます。八丁平の豊かな自然環境は、学術的にも価値が高いものです。



昭和53年頃の冬の八丁平





● 湿原の周囲の林には、ミズナラ、クリ、トチノキ、イタヤカエデ、コハウチワカエデなどの落葉広葉樹を中心にスギやヒノキ、モミなどの針葉樹も混生しています。秋には広葉樹が鮮やかに色づいて来訪者を出迎えます。



● 林床は、かつてはチマキザサが占有していましたが、数十年から百年にいちどの一斉開花後の枯死、増加するシカによる食害などが原因で、消滅の危機に瀕しています。ぼうろくまぐ防鹿柵を設けるなど、植生の回復に取り組んでいます。



● 湿原にはところどころに池^{ちとう}塘があり、モウセンゴケやオオミズゴケ、ヒツジグサやカキツバタ、スゲ類などが生育しています。貴重な植物が踏み荒らされないように、湿原の周囲には木道を設け、湿原内は立ち入り禁止となっています。



五感に響く

春

八丁平付近の残雪が消えるのは4月初旬。待ちわびた春の到来です。市街地よりも平均気温が5度ほど低い八丁平では、見逃した芽吹きのようにすを1か月遅れで、のんびりと堪能できます。

オオカメノキ



イワウチワ



マルバマンサク



ホンシャクナゲ



ズミ

● 視覚……
林を彩る
花々の競演

冬枯れの木立の中に小さな明かりがともるように、キンキマメザクラやマルバマンサクが咲きはじめます。枝先にみずみずしい若葉が茂り、森はしだいに彩度を増します。5月にはいけると、イワウチワやオオカメノキ、ズミ、ホンシャクナゲが咲き競います。



オオモミジ



キンキマメザクラ



ミヤマカタバミ



ウリハダカエデ



落下した種子から発芽した
テツカエデの新芽

●嗅覚……
谷渡る風が運ぶ
芳香の主は？



スギやヒノキなどの針葉樹が発散する芳香は、フィトンチッド(精油成分)とよばれ、心身をリラックスさせる効果が知られています。早春の八丁平に漂う甘い香りは、いちやく咲くタムシバの花。別名「ニオイコブシ」ともよべれます。



タムシバ

●触覚……
やわらかく、
みずみずしい若葉



木肌や土のぬくもり。やわらかな若葉の葉毛。手のひらで春を感じてみませんか。



クロモジの新芽



ヤマガラ

●聴覚……
軽やかにさえずる
野鳥たち



春は野鳥たちの繁殖期。ウグイス、オオルリ、コルリ、コマドリ、キビタキなどがパートナーを探して梢を飛び交い、縄張りを守ろうと、声高らかにさえずります。



オオルリ

●味覚……山村都市交流の森「翠峰荘」で
木の芽と山菜



たらの芽、こども、ふきのとう。新芽にはエネルギーが満ちています。野趣に富む山菜はてんぷら料理に好まれます。



ふきのとう

五感に響く

夏



ナツバキ

● 視覚 ……
水辺に映える青紫

初夏の八丁平に映えるカキツバタ。盛夏をすぎると、湿原に大量のアキアカネが集まってきます。



ベニドウダン

カキツバタ



タニウツギ

6月にはいと林冠をおおう緑はしだいに濃くなり、林の中はうす暗くなりますが、花々の競演は7月ころまでつづきます。ヤマボウシの白い花が谷筋を彩り、散策路はヤブデマリの白やタニウツギのピンクで縁どられます。

湿原では、鮮やかなオレンジのレンゲツツジや青紫色のカキツバタが咲きそろい、ナツバキやエゴノキの白い花たちが追いかけて咲きはじめます。

夏の盛りを迎えると、花の彩りは減り、一帯は深い緑につつまれます。

レンゲツツジ



サワフタギ



ヤブデマリ



ツルアジサイ



ヤマボウシ



カマツカ

●嗅覚……

林に漂う
甘い香りの正体は？

高い梢に花をつけるホオノキや
トチノキ。まちかに花を愛でる
ことはかないませんが、その甘い
香りが林の奥へと誘います。



ヤマジノホトトギス



コアジサイ

●聴覚……

鳥たちの歌声、
鳴りやまぬ蝉時雨

初夏の八丁平に響くのはホトト
ギスやカッコウ、ツツドリたちの
声。ウグイスの谷渡りもたびた
び耳にします。鳥たちの繁殖期
が終わるころ、気だるい蝉時雨が
始まります。



ホトトギス



リョウブの花と
アキアカネ

トチノキ



ホオノキ

●触覚……

しっとり輝く
オオミズゴケ群落

たっぷりと湿気を含んだオオミ
ズゴケは、まるでビロードの絨毯
のようです。



オオミズゴケ群落

●味覚……山村都市交流の森「翠峰荘」で
清流の女王 アユ

夏の味覚といえば、
清流でとれた新鮮な
川魚。桂川源流は釣
り客でにぎわいます。



アユの塩焼き

五感に響く

秋



マコモの実

●視覚……
湿原を縁どる
落葉樹



スギやヒノキなどの常緑樹にまじって、落葉広葉樹が織りなす紅や黄色の錦模様がきわだちます。鮮やかに色づいた木の実を野鳥たちがついばみます。



ズミの実



黄色く熟すズミの実
(キミズミ)

標高が800mを超える八丁平には、ひとあしはやく秋が訪れます。台風期が終わり、10月半ばをすぎると、山歩きにぴったりのさわやかな秋晴れの日が多くなります。赤や黄色、紫色など、さまざまな彩りの木の実をつける樹木が出迎えます。

八丁平では9種類のカエデの仲間が確認されています。葉の大きさや形、色の特徴を手がかりに、落ち葉を集めてみませんか。



色づいたイタヤカエデの大木



イヌブナ



オオモミジ



ハウチワカエデ



コハウチワカエデ



コミネカエデ



ヒナウチワカエデ



●聴覚……

ドングリの雨が 奏でる秋の歌

トチノキやクリの実を熟し、ミズナラなどのドングリ（堅果）は風が吹くたび降り注ぎ、パラパラと、落ち葉の鍵盤を弾きます。気配を静めて耳を澄ませば、林の奥で餌をあさるイノシシやサル姿が見つかるかもしれません。

オオミズゴケの
上に転がる
ドングリ



イタヤカエデ



ナメコ



ウリハダカエデ

ミツデカエデ

テツカエデ

*実物はイラストの
約3倍の大きさです。

●味覚……

秋の森は、動物たちの ごちそうがたくさん

でんぶん質をたっぷり含むドングリや草木の果実は、越冬するリスやネズミ、野鳥たちの貴重な食料です。散策路にはクリやトチノキの実も転がっています。



トチノキの実



クリの実

●触覚……

靴底から伝わる秋

鮮やかな落ち葉が積もったふかふかの散策路は、歩くと、カサカサと軽やかな音を奏でます。

●嗅覚……

香りをたどって、 その先には……

イヌナミの嗅覚をもつイノシシは、キノコを匂いで探しあてます。オグロ峠周辺の尾根沿いはブナを中心とする森。枯れ木や倒木にナメコの群生が見つかるかもしれません。



五感に響く

冬



尾根に生育するヒノキの林

11月にはいるとしぐれる日が増え、やがてみぞれに。11月中旬には落葉と前後して雪が降り、12月には積もります。積雪は平年1mほどですが、多い年には2mを超えることもあります。厳冬期の最低気温は零下10度を下まわることもあります。



冬枯れの八丁平できわだつ鮮やかな緑は、原始的な幹の構造をもつ広葉樹のヤマグルマ。見つけられるかな？



クリの枝についたヤドリギ



ヤドリギの実



木道に残されたタヌキの足跡

● 視覚 ……

立ち枯れの林できわだつヤドリギと針葉樹

八丁平の雪景色はまた一興。立ち枯れの林では、夏場は枝葉に隠れて目だたなかったヤドリギや、常緑の針葉樹などが存在感を増します。雪原に目を凝らすと、タヌキやノウサギ、キツネなどの足跡が森の奥へと続いています。



ヤドリギにまじってわずかにみられるアカミヤドリギの実



●味覚……
……山村都市交流の森「翠峰荘」で
牡丹鍋に舌鼓

山村都市交流の森の「^{すいほう}翠峰荘」の冬の定番は牡丹鍋。地元産の滋味豊かな猪肉とキノコ類、甘い冬野菜をご堪能ください。



牡丹鍋

●触覚……
樹皮にふれて
名前がわかる？

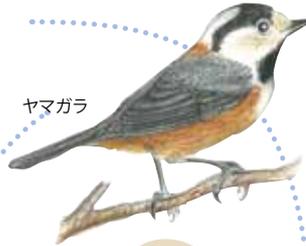
樹皮の色や厚さ、皮目や裂け目の形状は樹種によってさまざまです。葉や花が散ってしまった冬でも、樹種を見分ける大きな手がかりになります。



ヒメアカネ(メス)。
体長は2.8~3.8cmで、
日本の赤トンボの仲
間では最小サイズ



ヤマガラ



●聴覚……
雪原に響く
冬鳥の歌

葉が落ちて見通しのよくなった冬の森は、野鳥観察に適しています。シジュウカラやエナガ、ヤマガラなどの小鳥たちは、群れをつくって移動します。



●嗅覚……
匂いで縄張りを
誇示するキツネ

キツネはイヌ科の動物。電柱におしっこをしてマーキングするイヌと同様に、森のキツネも岩や木の根にマーキングして行動範囲を誇示します。

ナツツバキ



モミ



ミズナラ



ブナ



八丁平の森林

京都市の森林面積は61,019haで、市域面積の約75%を占めています。京都が都として千年余も栄えた背景の一つに、燃料や建築用材の供給地に恵まれていたことがありました。

●人間の森林利用と植生の関係

人間の定住が早くにはじまった地域では二次林や、スギ、ヒノキの植林が大部分を占めて、人の手の加わらない自然林を見ることは稀です。それでも、社寺の境内や長いあいだ人手が加わらずにいた山奥では、自然林の断片や、

自然林への回復途上にあると考えられる森林がみられます。そのような森林をもとに、自然植生の構造や組成、過去の植生などを調べることができます。

自然林はその地域の環境条件に長く適応してきたもので、安定した姿を示しています。しかし、

スギの巨木



人間の森林利用は、このバランスを壊すことがあります。植物社会の成りたちを理解し、そのような調和を維持できる範囲で利用しなければなりません。

●多様な広葉樹が生育

春の八丁平を一周する歩道を歩くと、周辺の森林は緑の葉を広げはじめ、とても明るい印象を与えます。落葉広葉樹林の特徴です。春に広げた葉は夏になると青々と茂り、秋には色づき、晩秋に葉を落とします。近畿地方の標高700~1,600mあたりの山地の多くで、この落葉広葉樹林が自然の状態で広がっています。

自然が比較的保たれている八丁平周辺では、多様な広葉樹が生育しています。ミズナラとクリが多く、これにカエデ類、ブナなどがまじっています。



イワヒメワラビ

八丁平をとりまく落葉広葉樹林

●人の手が入った二次林

八丁平周辺にこのような落葉広葉樹林ができたのは約1万前のことです。かといって、その自然が今日まで同じように保たれていたわけではありません。よく調べると、古くから人手がずいぶ

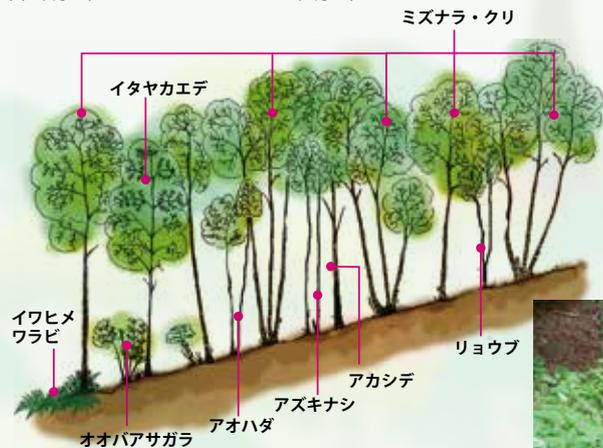
ん入っていたことがわかります。広葉樹の多くは、伐採されると切株からたくさんの芽を出し、「株立ち」になって生長する性質があります。八丁平周辺の森林を構成するミズナラやクリなども、株立ちの状態になっているも



イタヤカエデ



アカシデ



オオバアサガラの幼木

のが多くあります。樹木を薪や炭として燃料に使っていた時代に伐られたものです。

つまり、八丁平の森林は人手の入っていない自然林や原生林ではなく、二次林です。ところが、人の手が入らなくなって数十年たったことであつてのような広葉樹林になっています。このまま適切に保護すれば、景観的にも機能的にも充実した森林になるでしょう。

●森が湿原の環境を支える

周辺の森林は湿原の環境を維持するうえで重要な役割を果たしています。森林の土壌は雨水を貯え、少しずつ低地に流します。この保水機能によって湿原にはいつも水が流れ込み、湿地状態を維持しているのです。湿原周辺の森林がなくなると、大雨になれば泥水が流れ込み、晴れた日が続けば湿原は乾燥し、生態系のバランスは崩れてしまいます。



周囲の森から流れ込んだ水は、蛇行しながら八丁平を流れる

樹種に注目してみると……

八丁平の森林はミズナラやクリが中心ですが、場所によっては地形の違いなどで特徴の異なる森林が広がっています。オグロ坂峠の北の久多地区に下る斜面には、実が食料となることから残されたトチノキの多い林や、針葉樹のアスナロの林があります。ブナ林よりも低い標高に生育するブナに似たイヌブナをまじえた林もみられます。

マルバマンサク



●ミズナラ、クリを中心とする森林

湿原周辺のほとんどの斜面にはこの森林が広がり、八丁平の景観を代表する森林です。高木層はミズナラ、クリ、イタヤカエデ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ、コシアブラなどが占めます。亜高木層はタムシバ、リョウブ、ナツツバキ、マルバマンサク、ネジキ、タンナサワフタギなどで構成されています。



ミズキ



オオバアサガラ



テツカエデ

●サワグルミを中心とする森林

湿原の西にあるクラガリ谷にみられる森林です。湿潤な環境を好むサワグルミが高木層の多くを占め、ミズキ、オオバアサガラ、テツカエデ、キハダなどが多く、低木層にはサワフタギ、タニウツギ、マユミなどがみられます。



湿原周辺の森



タムシバ

●ブナを中心とする森林

オグロ坂峠周辺の尾根にみられる森林です。ブナが多く、ミズナラ、クリ、アカシデなども混生しています。ブナは冷涼な気候帯（冷温帯）を代表する樹種ですが、八丁平周辺ではオグロ坂峠付近と峰床山から南に伸びる尾根に生育しています。落葉広葉樹林にはスギ、ヒノキ、モミなどの針葉樹もところどころまじっています。



ヒノキ



クリの実



サワグルミ



ブナ林

チマキザサの消滅

湿原の北の端に面する斜面もかつては森林でしたが、樹木が伐り払われたあとは、チマキザサがおおいました。その後、稚樹は育たず、森林に戻ることはありませんでした。

平成12年頃からは山間部でシカによる食害が目だちはじめました。さらに、平成16年前後にはチマキザサが一斉開花・枯死しました。本来ならば開花によって枯死しても、地下茎や地面に落ちた種から発芽して笹原は再生されるのですが、発芽した新芽までもシカに食べられてしまうなど、さまざまな条件が重なり、チマキザサはほぼ消滅しました。近年は、シカの食べないイワヒメワラビが勢力を拡大し、斜面に繁茂しています。

祇園祭の粽などに利用されるチマキザサ。防鹿柵内で再生しつつあります（平成26年）



チマキザサ群落（平成18年）



チマキザサの開花と枯死（平成19年）



イワヒメワラビ侵入（平成20年）



イワヒメワラビ繁茂、防鹿柵を設置（平成23年）

高層湿原ってどんなところ？

冷涼な気温のため、植物遺体が分解されにくく、泥炭となって厚く堆積して盛り上がり、周囲からの流入水が入りにくくなった湿原を高層湿原といいます。八丁平の南の登山道から湿原を望むと、一面に低木が生い茂っているようすが見えてとれますが、なかには背の高い樹木も生育しています。湿原内は単純な植生に見えて、じつは60科107属150種もの植物が確認されています。しかも、いくつかのタイプの植生に分けることができます。

Aゾーン

高木層にアカマツまたは落葉広葉樹があり、低木層はイワヒメワラビにおおわれています。

Bゾーン

高木層はAゾーンと同じですが、低木層はイヌツゲが占めています。

Cゾーン

草本植物を主体とするもっとも湿原らしい植生です。湿原特有のこの群落は学術的にも貴重ですが、わずかな環境の変化で消えてしまうデリケートな性質もそなえています。

落葉広葉樹



湿原全景



イワヒメワラビ

北斜面

A ゾーン

B ゾーン

アカマツ

落葉広葉樹

イワヒメワラビ

イヌツゲ・アセビ

Dゾーン

イヌツゲと落葉広葉樹の低木による植生です。

Eゾーン

ヒノキやスギの常緑針葉樹が高木層を占めています。



アセビ

湿原内のほとんどに、イヌツゲ、オオミズゴケが生育しています。Cゾーン以外には、ヒカゲノカズラ、レンゲツツジ、ヤマウルシ、ノリウツギが生育しています。

ところが、Cゾーンにはこれらではなく、ニッポンイヌノヒゲ、アコウガイゼキショウ、ミズオトギリなどが生育しています。



ミズオトギリ



ニッポンイヌノヒゲ

●湿原植生をさらにくわしく調べると……

カキツバタの群落、モウセンゴケやマシカクイの群落、水分の多い箇所ではヒツジグサ、ホタルイの群落がみられます。湿原内を流れる水路は、フトヒルムシロが水面をおおっています。

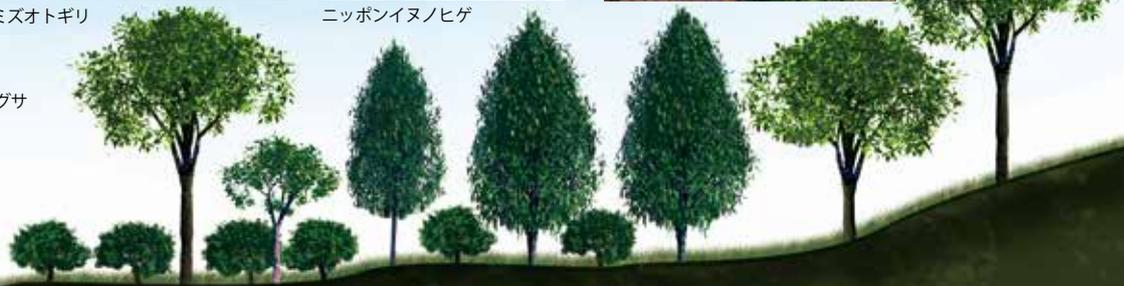
この湿原植生は八丁平の約10%を占めるだけです。他の箇所には、湿原周辺に生育するモミ、アカマツ、スギ、ヒノキ、ミズナラ、クリ、ナツツバキなどの高木が生育しています。このような樹木が生育するところほど、土壤水分は少ない傾向にあります。



スギの林



ヒツジグサ



南斜面

Cゾーン

湿地性草本

Dゾーン

イヌツゲ・アセビ

Eゾーン

常緑針葉樹

落葉広葉樹

湿原の堆積物

湿原の植生や周辺の森林は、どのようにできたのでしょうか。

これを解く鍵は、湿原の植物が生育している土にあります。

八丁平は盆地状で、^{れき}礫、粘土、泥炭などが堆積しやすい地形です。この堆積物を調べるため、鉄パイプのような器具を湿原に打ち込んで、地中の堆積物を採取しました。深さ240cmまでの堆積物を採取して詳しく調べることで、た

くさんのことがわかりました。

下の図は湿原の堆積物の断面図です。もっと深い地中の状況は明らかではありませんが、下から礫と粘土、泥炭、火山灰、礫と粘土、粘土、泥炭の順に堆積していました。火山灰を除いて、この堆積物

のすべてに植物の遺体が含まれていました。

一般に、水分が多く冷涼な気候のもとでは、そこに生育する植物は地上に倒れても分解されにくく、植物遺体としてその場に堆積します。これが泥炭で、分解され

ずに残った植物の破片を多く含んでいます。なかでも、花粉はほとんど分解されることなく原形をとどめています。この花粉が、私たちの知らない過去の森林や湿原の姿を語ってくれるのです。

24



●地層に残る花粉から 過去の植生を探る

多くの植物は、子孫を残す種子をつくろうと大量の花粉を放出します。しかし、めしべに到達できるのはごく一部で、ほとんどは落下あるいは空中をただよって、どこかに行ってしまいます。

通常は、花粉は土壌中で分解されますが、花粉の外膜は化学的にも物理的にも強い性質をそなえ

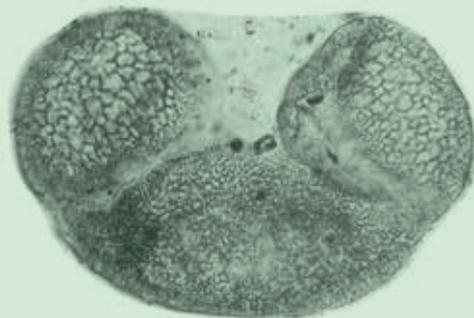
ているので、泥炭が堆積する水分の多い湿原などに落下すると、何万年たっても原形をとどめています。植物が枯れても、花粉は地層中に残るのです。しかも、花粉の形態は一般に、植物の属によって異なります。ある時代の堆積物に含まれる花粉の種類を調べれば、どのような植物が生育していたかが復元できるのです。これが「花粉分析法」です。

下に示した花粉の顕微鏡写真のように、さまざまな形の花粉が堆積物から見つかります。では、この堆積物はどれくらい前に堆積したのでしょうか。

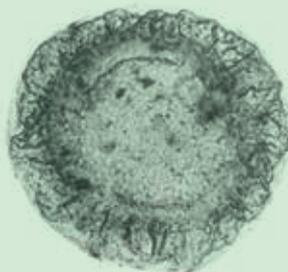
八丁平湿原の堆積物は、「放射性炭素年代測定法」によってさまざまな深さで年代が測定されています。さらに、この堆積物では4つの火山灰層が見つかっています。この火山灰がどの火山の爆

発で飛んできたかを調べれば、火山灰が堆積した年代が明らかになります。

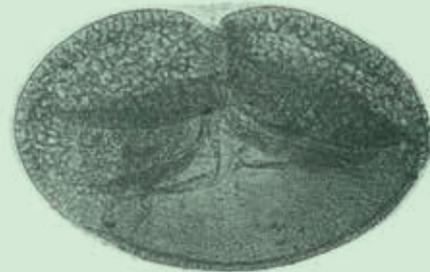
堆積物の断面図に示した古い火山灰は14cmもの厚さがあります。古い火山灰は約3万年前に鹿児島湾の湾奥の始良カルデラから、もう1つは約1万年前に朝鮮半島の東の沖合に浮かぶ鬱陵島から飛んできたものだとわかりました。



モミ属



ツガ属



トウヒ属



オニグルミ属



カバノキ属



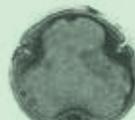
ハンノキ属



ブナ



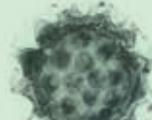
ケヤキ属



シナノキ属



モウセンゴケ属



キク科

湿原と森林の変遷

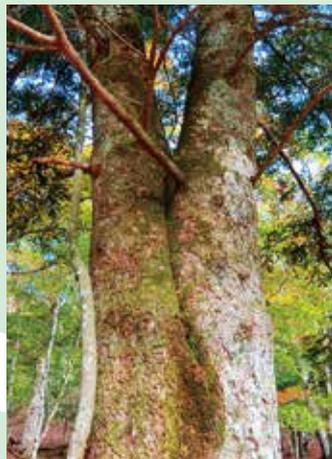
堆積物の花粉分析と年代測定の結果を総合すると、八丁平周辺の森林や湿原の植生が約3万年前から現在まで、どのように移り変わったかが明らかになりました。

● 亜寒帯針葉樹林の時代 (30,000~10,000年前)

モミ、ツガ、マツ、トウヒ、カバノキ、ハンノキの各属の樹木がほとんどを占めていました。どのような種類かは明らかにできませんが、おそらくオオシラビソ、シ

ラベ、チョウセンゴヨウ、トウヒ、コメツガ、ダケカンバなどの樹木ではないかと考えられます。いずれも、現在では標高1,600m以上の山地を中心に生育している種類です。この時代は、最終氷期とよばれる氷河期だったのです。

八丁平の標高は810mくらいですから、当時は寒冷な気候に支配されていたことがわかります。湿原内では、湿地性の草本植物の群落が発達して、現在の中部地方の山岳地帯にみられるお花畑のような景観であったと考えられています。



モミ



モミの稚樹



ブナ林

● ブナ林の時代 (10,000~5,000年前)

氷河期が終わり、気温が温暖になると亜寒帯の針葉樹林が後退して、八丁平はブナ、ミズナラが中心の落葉広葉樹の森林に変わりました。湿原内も変化し、ミズゴケが中心の湿原となりました。



オオミスゴケ

●ミズナラ林の時代(5,000年前～現在)

現在の八丁平周辺でも多いミズナラを中心に、イヌシデ、ミズメ、ブナなどの落葉広葉樹林の時代です。湿原内では、前の時代とくらべてミズゴケが減少したようです。

この時代、なかでも約600年前から現在にいたる堆積物に、マツ属の花粉が多く含まれるようになります。人間が農耕をはじめて森林を伐採、あるいは焼き払うなどの破壊を続けた結果、標高の低い地域ではやせた土地でも生育するアカマツが増えていました。アカマツの花粉は飛散能力が高

く、そうして飛来した花粉が八丁平の湿原にも堆積したのです。

湿原周辺は、5,000年前から継続してミズナラを中心とした森林でした。現在の湿原内に多くみられるイヌツゲ、オオミズゴケ、ヒカゲノカズラ、マンネンスギが中心の植生は、約600年前にできたようです。

湿原内に多い樹木が、いつの頃から侵入しはじめたかは明らかではありません。それでも、現在に近い景観は、約600年前には形成されていたと考えてよいでしょう。



ミズナラ



シカの食害を受けたイヌツゲ

いま、森で起きていること



ナラ枯れ

カシノナガキクイムシが媒介する病原菌によってミズナラなどが集団的に枯損する「ナラ枯れ」が発生しています。



シカの食害

樹皮や新芽、葉を食べられた樹木は成長を著しく阻害されます。樹幹が一周はがれると、枯死してしまいます。



湿原のイヌツゲもシカによる食害で減少しつつあります。部分的に柵をめぐらせて保全しています。



増えすぎたシカによる食害は深刻な状況にあります。

よーく観察してみると……

のぞいてみよう——水生植物

木道を歩きながら、周囲の湿地に目を凝らしてみましょ。水生植

物の容姿は多彩。1日に数時間だけ、ひっそりと咲く花もあります。

コケオトギリ

花は直径5～8mm。午後3時頃に開花。



ヤチスギラン

シダ植物の仲間。湧き水などによって冷涼な環境に保たれた湿地にのみ生き残る。

アリノトウグサ

茎の上に点々と小さな花を咲かせる。



アカモノ

6月頃に鐘型の白い花が咲き、夏には赤い実をつける。アカモノが転訛して名づけられたとも。



モウセンゴケ

コケとつづが種子植物の仲間。葉の表面に生えた腺毛(せんもう)から出る粘液で虫を捕らえる食虫植物。



カマツカ

花は白色。熟した赤い実は甘くておいしい。

5～8月に直径5mmほどの白い花をつける。



オカトラノオ

花穂の先端がトラの尾のように垂れ下がります。



クロモジ

花は黄緑色で、実は10月頃に黒く熟す。



カナクギノキ

艶やかに赤く熟した実は、オオルリやキビタキの好物。

フウリンウメドキ

5月頃に白色の花が咲き、長い柄の先に実が風鈴のようにぶら下がる。

感じよう

— 生きものたちの息づかい

野生の動物たちは人の気配を感じてさっと姿を隠してしましますが、あたりにはその気配が満ちています。足跡や糞、小さな羽音に命を感じて……。



サワフタギ

沢に蓋をするように枝を横に拡げる姿からこの名がついた。



ミズナラ

そのままでは渋くて食べられませんが、灰汁抜きすれば食用に。



ナナカマド

鳥たちがついばむのは真冬をすぎた頃から。果実酒にも利用される。



ニホンアナグマ

体長は40~50cm。食性はタヌキとほとんど同じで、土を掘り返してミミズやコガネムシの幼虫を食べる。



ニホントカゲ

背の金色の縞模様と青みがかった尾は、幼体の証。成長とともに模様はうすれ、薄い褐色に。



オオセンチコガネ

動物の糞や腐肉を餌にする糞虫の仲間。金属的な光沢のある体色が特徴です。



ニホンリス

あたりのようすを警戒しながら、クリの木の枝から枝へとすばやく移動して姿を隠す。



モリアオガエルの卵塊

水面上にせり出した木の枝などに泡でつまれた卵塊を産みつける。

オス



29



メス

ハッチョウトンボ

日本一小さなトンボ。ミズゴケ類やモウセンゴケなどが生育する浅い水域などを好む。©K-YASUI

アカゲラ(オス)

昆虫やクモ、多足類のほか、果実や種子なども食べる。枯れ木の幹にくちばしで直径4cm、深さ30~45cmの穴を開けて巣にする。

「歩きなれた道だから……」と気をゆるめずに

散策の心得と装備

散策の服装

春～秋

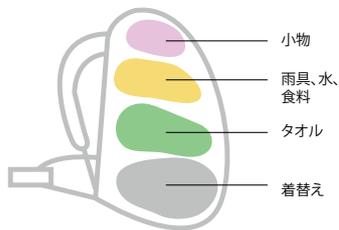
- 天候や気温にあわせて温度調整できるよう、重ね着しましょう。速乾性の高い七分袖、長袖のシャツがおすすめです。
- 上から一枚さつと羽織れるベストやパーカーなども用意しましょう。
- 素足での山歩きは危険です。薄手の長スボンや七分丈のパンツ、通気性のよいサポートタイツなどを。
- トレッキングシューズがいちばんですが、底ゴムが厚くて歩きやすい、履きなれたスニーカーでもだいじょうぶです。

- 足首までおおえるハイカットやミドルカットのトレッキングシューズがおすすめ。

- 防寒や日焼けを防ぐ帽子は必携。風に飛ばされないように。
- バッグは軽くて防水性のある素材で、体に密着するタイプのものを。両手は空いている状態に。

晩秋～冬

- 冬の山は天候が変わりやすいので、レインウェアなどの雨対策や防寒対策を入念に。保温のための首巻きも役立ちます。
- 上着は耐寒性にすぐれたものを。中はセーターやフリース。手袋もお忘れなく。作業用の軍手でOK。
- ズボンは動きやすく、耐水性と速乾性に優れたものを。
- ストックがあると、坂道での歩行の負担を軽減できます。
- 靴に雪が入らないようにスパッツを着用しましょう。
- 靴擦れ防止に厚手の靴下を選びましょう。



リュックの中には……

- 小物
ルートマップ、登山地図、懐中電灯やヘッド・ランプなどの照明器具、カメラ、携帯電話、ウェット・ティッシュ（濡らしたお手拭き）、サングラス、財布、保険証、虫除け、日焼け止め、マッチ（ライター）、ゴミ袋など。バックのポケットや小袋などを利用して、取り出しやすいようにしておきましょう。
- 雨具
上下に分かれるタイプのものを。
- タオル
汗をふいたり、ぬれた体を乾かしたり、怪我の手当てなど、タオルはなにかと役にたちます。
- 着替え
前開きの長袖シャツやウィンドブレーカーなど、さっと羽織れるもの。靴下や下着の着替えも。

八丁平は 「京都丹波高原国定公園」の 第1種特別地域です。

散策のルールとマナー

- 動植物をとらないでください。
生態系のバランスが崩れるだけでなく、あなたの次に訪れる人たちが、それを見られなくなってしまいます。
 - キャンプや焚き火はしないでください。
植生の破損や野生動物の接触、山火事などを防ぐためです。
 - 落書きは犯罪（器物破損）です。
あなたの次に訪れる人たちが気持ちよく使えるようにしましょう。
 - 野生動物にえさを与えないようにしましょう。
 - 木道や歩道から外れないようにしましょう。
 - ごみは捨てずに持ち帰りましょう。
 - 無理のない行動計画を立てましょう。
参加者の年齢や性別などを考慮して、余裕のある計画を立てて、参加者全員で共有しましょう。
- * 京都市では、八丁平を中心とするこの地域一帯で、森林保護のための巡視活動をしています。巡視員から指示があればこれに従うよう、ご協力をお願いします。

監修 安藤 信 (京都大学フィールド科学教育研究センター)
高原 光 (京都府立大学農学研究科)
山崎理正 (京都大学農学研究科)

引用 『八丁平の自然』京都市 (平成4年3月)

制作協力 京都通信社

デザイン 納富 進

作画協力 山崎 猛 p.12 (ナツツバキ、カキツバタ)、p.22-23、p.30

八丁平への交通アクセス

車をご利用の場合

北山通堀川から山村都市交流の森まで
北に約30 km、約60分。

※冬季は冬用タイヤが必要です。

公共交通機関をご利用の場合

出町柳からバス停「花背交流の森前」まで
京都市バス「広河原行き」で約90分



山村都市交流の森
TEL 075-746-0439
9時～17時
定休日 火曜日
(祝日の場合は翌平日)
※12月28日～1月5日は
年末年始休み

平成 28 年 3 月発行
 発行 京都市産業観光局農林振興室林業振興課
 電話 075-222-3346

京都市印刷物 第 273270 号



京都市
 CITY OF KYOTO

表紙の写真

イワカガミ

ナラの古木に生えたナメコ

秋の八丁平湿原

ニホンリス

ハツチョウトンボ

ハウチワカエデ

八丁平の木道

アカゲラ

ヒツジクサ

マユミの実

ホンシヤクナゲ

ニホントカゲ

八丁平湿原のオオミノコケ群落

ミスオトギリ

ヤチスギラン



アマゴ

